

暴力いじめ緊急対応 GIGA ワークブック活用表



一般財団法人 LINE みらい財団は、こども家庭庁・文部科学省等による「SNS 上の暴力行為等の動画の投稿・拡散を受けたことの暴力行為・いじめに係る緊急対応について」の方針を受け、教育委員会および学校現場の皆様が迅速に情報モラル教育を実施できるよう、活用型情報モラル教育教材『GIGA ワークブック 2025 年度版』への対応単元をまとめた「活用ガイド(A4 判)」を作成・公開いたします。2025 年度 3 学期中の指導や緊急の確認が求められる中、本ガイドを参照いただくことで、学年や発達段階に応じた適切な授業をすぐに実施していただけます。

ビギナー

主に小学校 1-3 年生向け

		P12	自己と相手のちがい	同じ言葉でも感じ方は人それぞれ違うことに気づき、文字だけでは感情が伝わりにくいネットの特性を学びます。
		P37	勝手にとってよいのかな	写真を撮る時のマナーと許可の重要性を学び、自分や友達を守るために勝手に撮影してはいけないという意識を育てます。
		P41	勝手に写真をとられたら	勝手に撮られた時の対処法を考え、嫌なことは伝える、消してもらう、大人に相談するといった具体的な行動を学びます。
		P107	これって悪口？	スタンプやメッセージの受け取り方は人によって違うことを知り、誤解からトラブルにならないための交流の仕方を考えます。

スタンダード

主に小学校 4-6 年生向け

		P9	写真を公開する前に	公開範囲によるリスクの違いを理解し、一度公開すると消すのが難しいネットの特性や、他者への配慮を学びます。
		P41	ふざけた写真をとってしまうときは	悪ふざけの撮影が重大なトラブルを招く場面を想像し、自覚を持って不適切な行動を抑制する力を養います。
		P45	その動画は本当に「おもしろい」の？	自分が「面白い」と思っても不快に感じる人がいることに気づき、迷惑動画の投稿や拡散が招くリスクを考えます。
		P90	イライラする気持ちをどこで共有する？	負の感情をネットで共有する拡散リスクを学び、怒りの感情を適切にコントロールするアンガーマネジメントを考えます。
		P105	間違った情報を公開してしまうと	誤情報の拡散が招く社会的責任を考え、デジタルタトゥーの永続性と法的な責任を理解します。
		P116	聞かれて・見られていやなプライバシーは？	自分と他者の感覚のズレを意識し、プライバシーの侵害が重大な人権侵害に繋がることを学びます。
		P120	いやなことを書かれたときは	悪意ある投稿への危機管理として、証拠の保存や大人への相談を学び、被害を受けた際の不安を解消します。

アドバンスト

主に中学生・高校生向け

		P9	こんなつもりじゃなかったのに	些細なやり取りから生じるトラブルのリスクを予測し、誤解を避けて自分の考えを適切に伝える工夫を学びます。
		P34	SNS による情報発信のリスク	ネットの特性や写真公開に関する法的な知識を学び、加害者・被害者にならないための責任ある行動を理解します。
		P108	批判と非難はどう違う？	建設的な意見（批判）と攻撃的な言葉（非難）を区別し、他者を尊重しながら意見を伝える方法を学びます。
		P110	反応を想像してみよう	発信後の多様な反応を具体的に想像し、攻撃的なコメントへの冷静な対応方法を考え、クラスで共有します。
		P112	チャットの悪口、どう止める？	誰かが悪口を言われている時に傍観者にならず、集団の雰囲気に流されずに適切に行動する勇気と方法を学びます。
		P140	どこからが誹謗中傷かな？	誹謗中傷と「表現の自由」の境界線や法的な定義を学び、匿名でも特定され罰せられるリスクを理解します。